

入 選

水が教えてくれたこと

日立市立十王中学校

三年 佐 藤 優 衣

蛇口をひねると出てくる水。私たちはそれを安心して直接飲むことができます。

しかし世界には、安心して飲める水が身近にはなく、整備されていない井戸や川などから水を汲んで飲んでいる人たちが六億六千三百万人もいるといわれています。

私は小学生の時に、小さい子供が遠くまで水を汲みに行っているコマーシャルを見て衝撃を受けました。私よりも小さい子供が学校にも行かずに、水を汲みに行っていることと、命をつなぐための水なのに決して綺麗とは言えない水を飲んでいたので

す。

私は今まで濁った水を飲んだことはありません。

唯一見たことがあったのは、テレビ番組で無人島に行った人が泥水をろ過した後、火で熱して飲んでいるところでした。少し濁っていましたが、飲めそうなものばかりだったので、「泥水を飲む」ろ過をして火で熱す」をみんなやっているものだと思います。

またSDGsの授業で、年間三十万人の子供が汚れた水や不衛生な環境が原因で亡くなっているということを知りました。子供は免疫が弱いいため、感染症や雑菌に勝てず亡くなってしまうことが多いのだそうです。

一方、日本は世界トップクラスで水質が良いといわれています。なぜ水質が良いのか考えたとき、私は小学三年生の時に行った「浄水場」を思い出しました。

浄水場の役割は、ごみや雑菌を取り除いた安全な水を家や学校などに届けることです。それが私たちのもとに届くまでに水がきれいになる六つの重要な工程があります。

まず、薬品を水とよく混ぜ合わせた薬品混和池

を通り、ブロック形成池でにごりのかたまりを成長させます。次に沈でん池でブロックを沈め水のにごりを取り、急速ろ過地で砂の層を通して水をきれいにします。最後に、粒状活性炭接触地で水のおいなどを取り、浄水池にきれいになった水を貯めておくというものです。

私たちが普段安心して水道水を飲むことができないのは、浄水場のおかげです。しかし、もしも日本に浄水場がなかったら、私たちも学校に行かず水を汲みにいき、綺麗ではない水を飲み、いつ亡くなってもおかしくない状況に立たされます。つまり、日本から浄水場がなくなると私たちが今送れている日常は簡単に崩れてしまい、長く生きることが困難になってしまうのです。そう考えたとき、今当たり前のように使っている水は当たり前ではなく、とてもありがたいもののだと気づきました。

私たちが生きていくうえで水は絶対に必要です。水を安心して使えるが故、私たちは水の価値を忘れかけています。でも、水は有限ではないし、身近に安心して飲める水がない人があるというのは忘れて

はいけません。それを一人一人が意識していけば、よりよい世界になると私は思います。